

# Fujizack フジザック 通信 18



これは、ふじざくら支援学校から保護者の方に情報提供する不定期通信です。  
【第18号】令和3年11月5日 文責：校長

先日の帰り道。精進湖を過ぎた辺りで、国道を横断するカモシカに遭遇しました。野生のカモシカを見たのは初めてで、大きくてズングリした体型に驚きました。身近にある豊かな自然の証です。カモシカは、「山梨県の獣」に指定されています。ちなみに「山梨県の花」は、我がフジザクラですね。さて、山梨だけではなく、全国的に新型コロナウイルスの感染者数が激減しています。ここまで来るのに、本当に長い期間でした。今後も、感染リスクの高い行事等については、中止や変更が考えられます。しかし、その他については、感染防止対策を徹底しながら徐々に通常の教育活動に戻していく予定です。

今回は、**【通信表】の様式の変更** についてお知らせします。

本校では、一人一人の児童生徒の状態に応じた適切な指導や支援を目指して、「個別の教育支援計画(A票・B票)」「個別の指導計画」「授業計画」を作成しています。そして、学習の様子や成果等について詳細に記録し、それらを定期的に評価し、修正・発展させながら次の学期や学年へとつなげています。いわゆるPDCAサイクルにより、一人一人の状態に応じた切れ目のない教育を目指しているところです。

この過程における重要な要素の一つに、学習評価があります。文部科学省は、各教科の学習を評価する方法として**【観点別評価】**を取り上げています。これは、児童生徒が学びを通して何ができるようになったのか、どのような力が身に付いたのかを明確にするための評価方法であり、3つの観点が示されています。

①知識・技能	<b>【基礎的な力】</b> 覚えたり、できるようになったりすることや、それを活用すること
②思考・判断・表現	<b>【応用的な力】</b> 覚えた知識や身に付けた技能をもとに、考えたり表現したりすること
③主体的に学習に取り組む態度	<b>【発展的な態度】</b> いろいろなことを自分から学ぼうとする主体的な態度のこと

学習評価の一つに通信表がありますが、これを上の①～③の観点による評価方法に変更するために、新たな様式について検討を重ねているところです。教科ごとに具体的な目標や内容は異なりますが、全ての教科において①～③の観点で学習を評価します。なお、特別の教科道徳や自立活動などは、このような観点別の段階による評価ではなく、記述式の評価方法を用います。

現在、小学部と中学部の通信表の様式を変更したところです。どのような様式が適切なのかについて継続して検討していますので、再び様式を変更する場合があります。なお、高等部については、令和4年度から新しい様式を用いる予定で準備を進めています。



通信表・・・私が小学生の頃は「◎・○・△」、中学生になると「5・4・3・2・1」で、各教科の成績が示されていました。終業式の日担任の先生から手渡される通信表を、周囲を気にしながらのぞき込んだことを思い出します。

一方では、通信表の内容に関係なく、終業式は嬉しい日でした。「明日から誰と何をして遊ぶのか・・・」とワクワク・ウキウキ。学期中も毎日十分に遊んでいたのに、長期休業はやっぱり特別です。そして、遊びほうけた長期休業の終盤には、未完成の宿題地獄が待っているのです。毎年毎年、全く懲りないのです。